

アピール 大飯原発3・4号の再稼働を止めよう！

12月13日、広島高裁は、火山問題で伊方3号機の運転を禁じる仮処分決定を出しました。原子力規制委員会の判断は不合理で、四国電力の火山灰の層厚・大気中濃度の想定も過小だと判断を下しました。この内容は、大飯原発や高浜原発等に当てはまります。今回の決定を踏まえて、大飯原発の再稼働を止める運動を一層強めていきましょう。

関電は、神戸製鋼の検査データ改ざん問題で調査に時間がかかるとして、再稼働を2ヶ月延期し、3号機を3月中旬に起動、4号機を5月中旬に起動すると発表しました。大飯原発の格納容器材料や重要部分には神戸製鋼の製品が使用されていますが、調査中にも関わらず「安全性に問題なし」と述べています。データ改ざんの疑いが晴れない限り、再稼働など到底許されません。全ての資料を公開し、国の審査も公開で行うべきです。

関電は福島第一原発事故を小さく見せかけ、福島原発の5km圏外「最大」被ばく量は毎時91 μ Sv以下と、2011年4月末の数値を使って平然とウソを垂れ流しています。基準地震動や放射性物質の放出量を過小評価する一方、自社の事故対応を都合よく想定し、原発事故時には「屋内退避で十分」などと、各地の説明会で述べ、住民を愚弄しています。

さらに、住民説明会が開かれたほとんどの自治体は、参加者を区長等に限りました。30km圏内で説明会さえ開いていない自治体もあります。改めて、誰もが参加できる説明会の開催を求めていきましょう。

福井県が使用済核燃料の「中間貯蔵施設」の県外立地を求めたことに対し、関電は2018年中に具体的な計画地点を示すと表明しました。しかし核燃料サイクル構想は破綻しています。核のゴミの行き場はなく、「中間貯蔵施設」は永久のゴミ捨て場となります。再稼働にも、原発推進のための「中間貯蔵施設」にも反対しましょう。

この間、関西と福井では大飯原発3・4号機の再稼働に反対し戸別訪問や学習会、避難元及び避難先の自治体申し入れなどの取り組みを進めてきました。京都、滋賀の30km圏内では、過疎化、高齢化に加え、避難手段の確保は難しく、屋内退避も避難も非現実的です。住民の多くが「避難はとても無理」「福島事故の責任もとっていないのに再稼働などあり得ない」等々語られました。国や関電、福井県知事等が聞こうとしない、住民の声に依拠して活動を強めていきましょう。

自治体への申し入れでは、避難元では避難ルートの重複や避難弱者の避難の困難さが浮き彫りになりました。避難先では避難所も決めていない等、受け入れは現実味に欠ける想定です。自然災害で孤立する地域があるにも関わらず、安定ヨウ素剤の事前配布は頑なに拒んでいます。

若狭の原発で事故が起これば、福井はもとより、被害は関西全域に及び琵琶湖も汚染されます。福島原発事故の悲劇を繰り返さないために、大飯原発3・4号機の再稼働を延期で終わらせず、このまま廃炉へと繋いでいきましょう。稼働中の原発への反対も強め、さらなる再稼働を一機たりとも許さず、一日も早く全ての原発の廃炉を実現しましょう。

想いを同じくする人たちと、共に、前に進んでいきましょう！

2017年12月16日

大飯原発3・4号の再稼働を止めよう！12/16 関西・福井の交流集会 参加者一同